

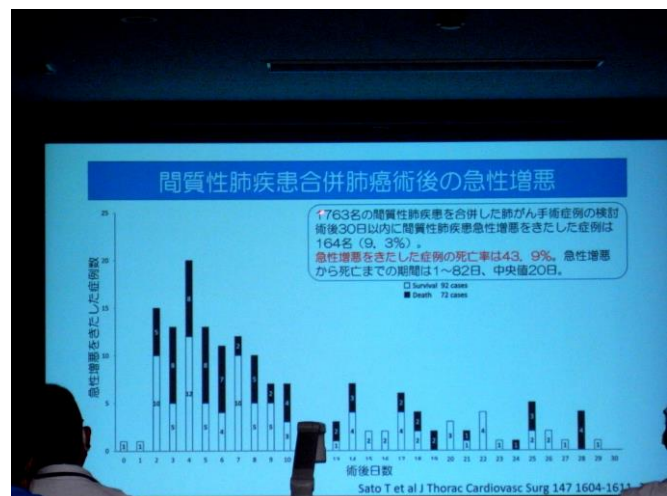
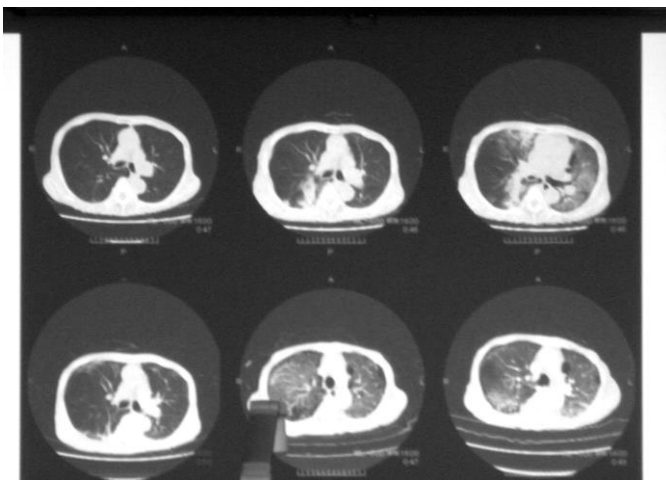
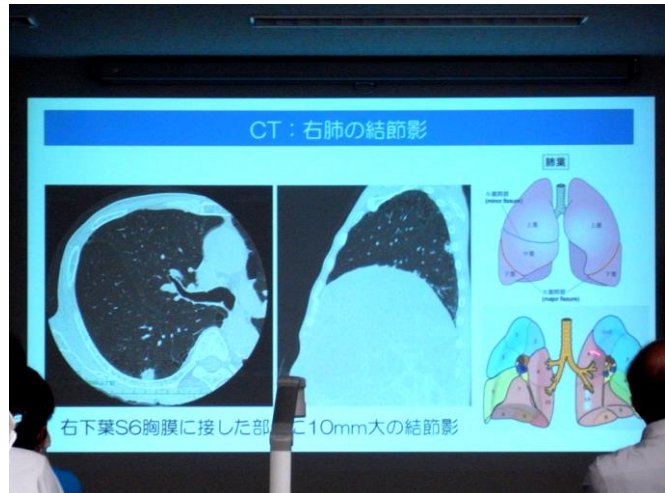
院外講師教育研修

日時：令和3年3月16日（火）午後5時より開始

場所：はまゆう会 新王子病院4F研修室

講師：産業医大病院腎センター 宮本哲先生

症例：肺がん術後の間質性肺炎増悪の症例（72歳 男性）



術前・術後の経過と、間質性肺炎について画像を交え詳しく講義していただきました。

本症例では、肺癌疑いから胸腔鏡下右下葉部分切除術（術中迅速診断で扁平上皮癌と診断）施行し、術後3日目より発熱・CRPの急激な上昇・CTにて肺炎像の出現および増悪を認めました。

間質性肺疾患のある患者の肺がん術後急性増悪は約10%で、増悪した患者の死亡率は44%と高くなっています。間質性肺疾患合併肺がん術後急性増悪の危険因子として、①間質性肺炎急性増悪の既往、②楔状切除以外の術式、③CTでUIPパターン、④ステロイド投与、⑤KL-6>1000U/mL、⑥%VC≤80%がありますが、本症例では6個中3個該当していました。当初、術後の抗生剤使用による薬剤性の間質性肺炎を疑ったものの精査で否定され、喫煙歴が長い（15本x45年）ことから、喫煙が最大のリスクファクターだったのではないかとのことでした。

大変わかりやすく、改めて喫煙の恐ろしさを感じる講義でした。